



Hola! (オラ! こんにちは)

オラが町

オリパラ通信 Vol.15

世界最高峰の競技大会 「パラリンピック」

パラリンピックとは、
Parallel^{パラレル}∪Olympic^{オリンピック}を合わせたもう一つのオリンピックという意味に由来し、障がいのあるトップアスリートが目標とする大会です。
パラリンピックは1948年にイギリスの病院で開催された、車いす患者によ

るアーチェリー大会が原点です。これを考案したのが、「パラリンピックの父」グットマン博士です。

そしてグットマン博士の下で学び、日本でリハビリにスポーツを導入したのが、大分県国立別府病院の中村裕博士。中村博士は、1964年東京パラリンピック大会の開催にも尽力しました。

さまざまな『工夫』が特徴のパラリンピック

ひとつことに「障がい」と言っても、腕や脚、視覚、聴覚など、多くの種類や障がいの程度があります。選手全員が、平等で公平に参加できるよう、様々な工夫でパラリンピックは行われています。

用具の『工夫』

車いすバスケットボールのタイヤは、すばやいたーんに対応できるよう、八字に工夫されています。

車いすテニスでは、車いすの重心が前に置かれ、急発進や俊敏な動きができる

工夫がされています。

ルールの『工夫』

視覚障がい選手同士の柔道競技では、対戦相手と組んだ状態から始めます。

車いすテニスは、2パウンド後の返球が認められるなど、ルールを工夫して行います。

障がいを分ける『工夫』

障がいの種類や程度にクラス分けをし、同程度の障がいの選手同士で競技をします。

パラリンピックの可能性

「できない」ではなく「どうしたらできるか」という視点と、さまざまな工夫により、障がいがあってもスポーツで活躍することができます。

そして、「できる」という無限の可能性を広げるのがパラリンピックなのです。

工夫をすれば、
いろいろなことが
出来るようになるんだね

